

知っておきたい中国の重要行事！！

北京事務所

大晦日や元旦の行事、また入学式や入社式、人事異動など、日本人にとって重要な時期や行事は数多くあります。ここ中国でも同様に、古くから大事にされてきた行事や習慣が多数あります。今回は、毎年の中国における重要行事を簡単に御紹介します。既に御存知の方も多くいらっしゃるかと思いますが、日本で中国関連の業務を御担当の方、今後中国出張を控える方にとっては多少なりとも必要な知識なのでは・・・と思い筆を取った次第です。

行事の種類

春節（1月下旬～2月中旬）

年初から見えていくことにします。まず春節ですが、これは御存知の方が多くはないでしょうか。春節とは旧暦の正月、所謂旧正月と呼ばれる中華圏で最も重要とされる祝祭日です。春節は、「初一（日本でいう元旦の）」から「元宵節（初一から 15 日目の日）」までの期間のことを指し、初一の前日である「除夕（日本でいう大晦日）」では国内は年越しムード一色、夜は花火や爆竹がいたるところで鳴り響きます。この時期になると、必ずといっていいほど中国人はお土産を買い込んで家族や親戚の待つ故郷へ帰ります。一説によれば、2013 年の春節はのべ 34 億人以上が中国大陸を移動したということです。もちろん会社や学校は休み、社会人にとっては、約 10 日程の連休となります。

春節の時期は毎年旧暦によって異なり、2013 年の初一は 2 月 10 日（日）でした¹⁾。前週の後半から休日とした企業もあったようで、地方からの出身者が多い北京市内は閑散としていました。交通渋滞が深刻な北京市も、春節の期間だけは渋滞無し、タクシー待ち無しの交通便利な場所になります。その代わりありとあらゆる中国系のスーパーや百貨店なども休みとなり、買物するには大変不便になってしまうので、この時期中国にいらっしゃる方は注意が必要です。

人民代表大会（2月～3月）

次に全国人民代表大会（以後全人代）と地方人民代表大会（以後地方人代）です。簡単に言えば、前者は国会、後者は地方議会に相当し、各法律の制定改廃、国家主席や地方代表の選出、予算の決定等が行われます。会期は 10 日前後です。

全人代の時期は毎年 3 月頃ですが、地方人代はその決定内容を全人代に報告する必要があることから、2 月頃に開催されることが多くなっています。2013 年の北京市人民政府人代は、春節の時期を受け少し早めの 1 月 22 日から 28 日まで開催されました。他の地方でも今年は 1 月の下旬に開催されたところが多かったようです。ちなみに、2013 年の全人代については、5 年に一度の人事交代を行うため、3 月 5 日から例年より長く 2 週間の期間で執り行われる予定となっています。

国慶節（10 月上旬）

10 月 1 日、この日は 1949 年に中華人民共和国の成立が宣言された記念すべき日であり、国慶節と呼ばれています。国慶節は中国の法定休日の一つであり、前後で約 1 週間程度の連休となります。この季節は気候的にも過ごしやすい時期にあたり、中国で最も観光旅行客が増えるシーズンとなっています。春節の時期とは反対に北京市内は地方からの旅行者で溢れ、観光地は正に人の山となります。2012 年に、世界遺産の一つである故宮（紫禁城）では、一日で約 20 万人が訪れたこともあったようです。

～おまけ～

大学卒業・入社シーズン（9 月）、官公庁人事異動（1 月がメイン、随時）

中国では通常学校教育において秋入学を採用しており、各学校は 8 月末までに卒業式を執り行います。そして 9 月、大学を卒業した卒業生達は新たに社会へ飛び立っていくのです。そのため、日本でいう 4 月の入社シーズンは中国では 9 月にあたります。

それでは官公庁の人事異動も 9 月なのかというと、実はそうではありません。官公庁の人事異動は主に 1 月に行われることが多くなっています。これは、2、3 月に行われる人民代表大会をにらんでのことです。しかしそれも主に管理職においてのこと、実は中国における一般行政職員に、異動はほとんどありません。日本の、特に都道府県市区町村と違って、中国の地方人民政府は役所単位ではなく、部署単位（主に日本の部、課単位）で最終的に採用をするためです。そのため部や課を飛び越えての異動はあまりありません。例えば、私の友人の地方政府職員の場合でも、これまで同じ国際担当部署の中でアジア担当から欧米担当へ異動、といったことがありましたが、約 10 年勤めた中で別の部へ異動したことはない、といったことがありました。

終わりに

今回御紹介した中国の行事は本当に大きいものばかり、細かく見ていけばもっと多くの種類があります。しかし、中国に関心がある方、特に日本の行政職員で中国に関わる業務に就かれている方にとっては、まず今回御紹介した時期をおさえておけば損はないはずです。なぜなら、中国は日本以上にこういった伝統や行事を重要視する国であり、同時期をはさんで前後は官公庁が動かないことが多いからです。政府の幹部達とのアポイントメントも取り辛くなります。つまり、業務としての訪中にはあまり向かない時期になります。今回御紹介させていただいた内容が、今後の対中事業において少しでもお役に立てれば幸いです。

1) 中国では、1912 年に太陽暦が正式に採用され、「元旦」は新暦の 1 月 1 日に、旧暦（現在は農曆）の 1 月 1 日は「春節」として名称を変えた。旧暦 1 月 1 日の春節は暦法の違いにより新暦 1 月 22 日から 2 月 19 日までを毎年移動する。そのため、春節はもちろん、中秋節など旧暦を元に定められた祭日等は、毎年新暦上日付が変わることになる。

(阿部所長補佐 東京都文京区派遣)